

社会の歩みとともにある助産専門職



徳島大学医療技術短期大学部 竹内 美恵子

21世紀に至るまでの人々の生活は、基本的
人権の深化と拡大とともに歩んできています。
生存権に始まり、生活権、加えて健康権が確
認されて来ました。そして今、次の世代におく
る健康で快適な生活環境を保存するための環
境権へと拡大しています。この経過の中にお
いて、母子保健そして医療の場では、母と子、
そして患者の人権尊重が強く求められること
となり、社会的な関心は「よく説明された上
での同意」「informed consent」に当てられて
きています。助産婦としての専門的判断は、
母と子その家族がケアを決定するための、必
要十分な情報を伝達するために重要となりま
した。ケアの送り手と受け手が合意した助産
サービスの提供が求められることになり、ケ
アの受け手となる妊産婦等は、自らのケアの
選択権を得る一方で、提供されるケアに責任
を持つことにもなりました。当然ですが、助
産婦としての専門職の自由裁量権が制限され
ることにもなっています。21世紀を迎える今、
人々の健康権は、健康水準に対応した保健・
医療サービスの提供をより強く求めることにな
りました。更に、社会における科学技術の
進展は、助産の分野に科学の発展に相応した
教育、研究、実践が求められることになりま
した。他方、助産は他の科学の分野のように
発展的に前進の道を歩いたわけではありませ
ん。助産婦の科学的な努力は、直感的な好奇
心、あるいは実際的な関心によって引き起さ
れてきていました。徐々にではありますが、
助産婦と助産サービスの社会的責任の範囲が

明白になり、何を研究すべきか、そしていか
なる疑問が問われるべきかについての専門
的な判断が社会的な要請に対応しつつ高めら
れております。いうまでもなく助産実践は、
知的なものであり、実践にとって欠くことの
できない妥当で科学的な基盤をもつものであ
ります。助産婦はそのサービスのために必要
なものについて、絶えず増加する知識体系を
つくりだす責任があります。助産婦が専門職
として発展するためには、実践活動のための
知識の理論体系を明確にし、継続的に発展で
きるようにならなければなりません。

私達は助産婦としての能力を個々に信じて
います。そして、21世紀はいくつかの課題に
納得のいく答えが得られることを信じていま
す。助産が提供するサービスの本質は何か、
それに対してどのような知識体系が必要なの
か、また、助産婦として与えられた責任を果
たすために、どのような事象が研究されなけ
ればならないか、そしてどのような疑問を解
決することが助産実践を発展されるのか、そ
れぞれが納得のいく答を準備しつつあります。
いま、教育—研究—実践にいる助産婦は、助
産実践を根拠に基づいたケアへと改革、改善
するための努力を進めています。

このような状況の中で、本学会の近藤潤子
理事長の英断のもとで、研究助成を行なうこ
ととなりました。これらはささやかな研究助
成ですが、助産実践における研究の将来
への方向づけに影響を及ぼすことを期待し
ています。

平成 12 年度研究助成対象者の決定について

学術進行委員会選考委員会 近藤潤子、竹内美恵子

平成 12 年 3 月 22 日の総会決定に基づき、本年度より研究助成が行われることとなりました。助成は(1)助産学の発展に関する調査・研究、(2)助産実践の開発等に関する研究、(3)母子保健領域の学際的調査・研究についての領域の研究に対して、学術奨励助成及び委託研究助成を行うこととなりました。交付の条件は、すでにある程度の業績を有し、本研究助成金によって研究の新しい展開が相当の確実性をもって予想されるものであることを条件にいたしました。

平成 12 年度の募集には 25 名の応募があり、委託研究応募者 5 件、学術奨励研究応募者 20 件でありました。

選考は、選考基準により審議した結果、学術奨励研究助成 2 件、委託研究助成 2 件を決定致しました。採択された研究課題ならびに研究者の皆さんは下記の通りです。

ご応募頂きました方々には、熱誠な研究意欲に敬意を表し発表にかえさせていただきます。

記

委託研究助成対象者

1. 研究代表者氏名 村上 明美 所属 日本赤十字看護大学
研究題目 「日本の助産婦がもつべき実践能力と責任範囲に関する助産婦の認識」
1. 研究代表者氏名 村上 睦子 所属 日本赤十字医療センター
研究題目 助産婦が行うモニタリングケア及びサポーターケアの構造化と助産婦の臨床能力の明文化の試み
以上 助成額 50 万円

学術奨励研究助成

1. 研究代表者氏名 宮崎 文子
所属 大分県立看護科学大学
研究題目 損益分岐点分析を用いた助産院経営モデルの検討－全国有床助産院の調査から－
1. 研究代表者 葉久 真理
所属 徳島大学医療技術短期大学部
研究題目 産褥期の乳腺変化と乳汁分泌との関係に関する研究
以上 助成額 30 万円

なお、研究計画の遂行に当っては、人権および利益の保護の扱いに十分配慮し、相手方の同意・協力を得ることに留意してくださるようお願いいたします。なお、詳細は追って研究代表者に通知致します。



< ICM からののお知らせ・・・2000、5～6月 >

Worldwide news



「World Breastfeeding Week」

World Alliance for Breastfeeding Action(WABA) は、2000年8月1～7日世界母乳週間のイベントに、助産婦の参加を呼びかけた。

このイベントは、母乳への意識を高める週間で、今年のテーマは、「母乳：それはあなたの権利」である。働く女性の数が、世界中で過去最高となった現代、授乳は女性にとっても注目度の高い問題となった。

世界保健機構は、1999年に「勤労婦人にとって生後4～6カ月間の授乳は、勤務時間内であっても許可されるような勤務体制が重要である。またそれは母子の健康にも同様に重要である。」という声明を発表した。

WABAは、母乳週間の間に援助活動に必要な多くの実質的な資料を用意した。それらは報道機関向けの発表であったり、活動のためのパンフレットやポスター、また国の法律による母性保護の実情を表している図表、またそれらの展示用パッケージの注文書なども含まれていた。

*WABAに関する詳しい情報や資料などが必要な方は、以下のアドレスにアクセスすることをおすすめします。

WABA, PO Box 1200, 10850 Penang, Malaysia

Tel:+60 4 658 4816;

Fax:+60 4 657 2655

e-mail:secr@waba.po.my

website:www.waba.org.br



Taken from WABA,s 'Images of Breastfeeding Worldwide'

WABA at the address below if you would like further information or any of the materials on offer.



Japan Academy of Midwifery

第 15 回日本助産学会学術集会のご案内 (第 2 報)

21 世紀に始めて開催される学会にふさわしく、新しき器に新しい息吹きの願いをこめて、文化と伝統の街、金沢から発信したいと思います。メインテーマは「21 世紀における助産学からの羅針盤」としました。皆様の日頃の研鑽をおまとめになり、多くの方々からのご発表とご参加をお待ち致しております。

学術集会会長 坂井 明美

1. 期日 2001年3月24日(土)～25日(日)
2. 会場 金沢市文化ホール(金沢市高岡町15番1号 076-223-1221)
3. プログラム概要

第 1 日 3月24日(土) 12:50～18:40

- *会長講演 「助産学にとっての乳房管理の方向付けとは？」
演者：坂井 明美(金沢大学)
座長：堀内 成子(聖路加看護大学)
- *特別講演 「性と生殖に関する健康と倫理」
演者：迫田 朋子(NHK 解説委員)
座長：近藤 潤子(日本助産学会理事長・天使女子大学)
- *シンポジウム 「変革期の家族支援」
シンポジスト：石原 多賀子(金沢市教育委員長)
戸田 律子(JACE日本出産教育協会)
橋本 洋子
(聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院周産期センター臨床心理士)
大谷 タカコ(大谷助産院)
座長：小松 美穂子(茨城県立医療大学)
大久保 功子(信州大学医療技術短期大学部)

第 2 日 3月25日(日) 9:30～16:30

- *ワークショップ
 - 1) 助産学教育と臨床の連携・接点
コーディネーター：松岡 恵(東京医科歯科大学)
演者：新道 幸恵(青森県立保健大学)
有森 直子(聖路加看護大学)
 - 2) 助産婦の変革能力を問う
コーディネーター：加納 尚美(茨城県立医療大学)
演者：村上 睦子(日本赤十字社医療センター)
佐山 光子(新潟大学)
 - 3) 女性の性の選択と助産婦の役割
コーディネーター：鈴木 江三子(広島県立保健福祉大学)
演者：沢山 美果子(順正短期大学)
大牟田 智子(春日助産院)
 - 4) 助産婦に必要なカウンセリングスキル
コーディネーター：丸山 知子(札幌医科大学)
演者：五十嵐 透子(金沢大学)
姉崎 正子(こころとからだのカウンセリングスペース「十人十色」)
 - 5) 母乳管理の側面から見たクリティカルパスとevidence care
コーディネーター：岸田 佐智(高知女子大学)
演者：野口 真弓(日本赤十字広島看護大学)
吉橋 和子(吉橋助産院)

***教育講演**

「医療事故と情報開示」

演者：石井 トク（岩手県立大学）

座長：内藤 和子（福島県立医科大学）

***一般演題発表**

口演・示説（ポスターセッション・ビデオセッション）

4. 日程概要

時分	9:00	11:00	12:00	12:50	13:00	13:50	15:00	16:10	18:40	19:00	21:00
第1日	理事会	評議員会		オリエンテーション	会長講演	特別講演	総会	シンポジウム	懇親会		
第2日		ワークショップ	教育講演	昼食	一般口演						
	9:30	11:20	11:30	12:30	13:30			16:30			

5. 参加費について

1) 学術集会参加費：

①会員 前納（12月18日まで）8,000円，後納（12月19日から1月31日まで）9,000円

②非会員 前納（12月18日まで）9,000円，後納（12月19日から1月31日まで）10,000円

③学生（但し大学院生は除く）4,000円

2) 懇親会参加費： 8,000円

懇親会会場：金沢ニューグランドホテル（学会会場に隣接）

☆学術集会には、本学会に入会されていない方や、助産婦学生・看護学生の方も参加できます。参加ご希望の方は郵便局にてお振り込みください。郵便振り込みでの参加申し込みは、1月31日で終了させていただきます。当日参加も可能ですので、多数の方々に参加をお待ちしております。

☆振込先：郵便振込口座番号 00790-3-46416

加入者名 第15回日本助産学会学術集会

6. 会場へのご案内

金沢市文化ホール

金沢市高岡町15番1号

TEL 076-223-1221

FAX 076-223-1299

・駐車場は設けてありませんので近くの有料駐車場をご利用下さい。

交通のご案内

飛行機/小松空港より空港バス60分、
香林坊下車徒歩5分

JR/金沢駅東口よりタクシー10分
金沢駅東口7,8,9番より北鉄バス10分、
南町下車徒歩3分

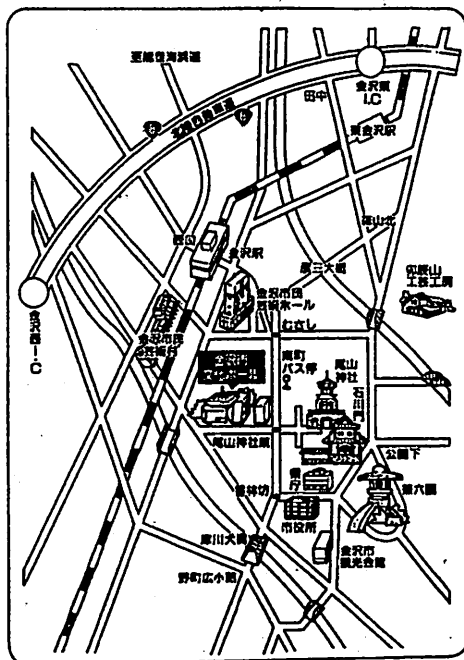
<連絡先>

〒920-0942 金沢市小立野5-11-80

金沢大学医学部保健学科 母性・小児看護学講座

第15回日本助産学会学術集会事務局

TEL 076-265-2547/265-2544/265-2557



第13回日本助産学会 ワークショップのお知らせ

2002年に東京で開催予定の助産学会の前に、会員みなさまの研究活動を支援するためのワークショップを以下のように企画しました。例年と異なり、グループワークの形式はとりませんが、非常に有益な講義です。植村教授は日本学術会議の委員を歴任され、国際的にも通用する論文の書き方と発表のし方をわかりやすく講義していただきます。以前、このテーマでの講演がたいへん好評で立ち見の席が出たくらいの内容です。将来の学会員になる助産婦学生の皆様にも是非一度、聴かれることをお勧めします。そして、次なる研究活動へつなげていただけると幸いです。

テーマ：“もっとうまく論文発表するために、知って得する講座”

開催時間：2000年11月13日(月) 午後6時より午後8時(受付5時30分)

開催場所：聖路加看護大学 アリス C. セントジョン・メモリアルホール

基礎講演：「うまい研究発表のコツ -論文の書き方と学会発表-」

愛知医科大学看護学部 植村 研一 教授

なお、日本助産学会誌掲載論文の動向と今後への期待という本学会編集委員会からの報告もあります。参加希望者は、参加費を下記の郵便振替口座に11月6日までにお振込み下さい。

参加費：2,000円(会費・非会員ともに)、学生は1,000円

郵便振込み先：番号 00190-5-37388

名称 母性看護学・助産学研究会 代表 堀内 成子

連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学

FAX: 03-5565-1490

平成11年度に東京女性財団の補助金を頂いて作成した「こんにちは！助産婦はいつも女性と共にいます」のパンフレットを全国助産婦教育協議会の加盟校と、日本助産婦会の各都道府県支部に一定数差し上げました。パンフレットは大変好評で色々のイベントに活用したいのでと日本助産婦会福島県支部、福岡県支部から注文が参りましたので、10,000部を増刷いたしました。作成時より紙代が値上がりし、1部13円になりました。

ご希望の方は、助産学会事務局(TEL/FAX 03-3221-0417)に部数+5%税金+郵送費を添えてお申し込み下さい。

☆お知らせ☆ 

学術集会・総会等の写真・その他の資料の募集について

日本助産学会学術集会・総会における写真等を学会の史料として保存するために、第1回から各回の学術集会会長様にご提供をお願いしたところですが、会員の皆様からのご協力もいただきたい考えています。下記のように宜しくお願いします。

- 写 真 1～10枚程度（年月日・場面の説明を付ける）
その他 学会に保存した方がよい文献等（説明を付けて下さい）
費 用 写真の焼き増し代、送料、その他の費用は実費をお支払いします。
費用をご記入の上お送り下さい。
期 日 2000年11月末までに助産学会事務所へご送付下さい。

ICMセーフマザーフード（母性保健）募金の御礼

現在、ICMセーフマザーフードの募金として4名、2団体の方々から5,349,000円いただいております。お送りいただきました会員の皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。

募金していただきました方々の団体名と氏名を掲示いたします。（順不同・敬称略）

日本助産学会一会員（匿名希望）

大村いづみ

西久保レイ子

山西みな子

「国際助産婦の日」徳島 記念事業 促進会

「国際助産婦の日」第9回愛知県集会実行委員

- ・平成12年4月23日（日）ウィルあいち（愛知県女性総合センター）にて、例年とは趣を変え「地球交響曲ガイアシンフォニー第3番」を上映した。その収益金より30万円の寄付がなされた。



母子のメンタルヘルスケア能力育成コース 《第2コース》のご案内



このコースは、厚生省科学研究班（主任研究者：中野仁雄・九州大学医学部教授）の助成を受けて開催されます。当研修は、助産婦のメンタルヘルスケア能力を養うためのプログラム策定チーム（研究担当者：新道幸恵 他青森県立保健大学母子看護学講座教員）により検討されたコースです。参加者には当プログラムの評価に関する調査にご協力していただきたいと考えております。心理・精神疾患をもつ妊産婦ケアなどの最新の技術を身につけ、日常における看護実践や後輩の指導に活用していただくことを目的としています。

*第2コースはメンタルヘルスケア応用編（精神疾患コース）となっております。（第1コースは基礎編で、9月18日～22日に終了いたしました。）

【ねらい】 精神疾患のある妊産婦のケアについて理解を深め、看護実践に活用できる。

【期間】 平成12年11月20日（月）～11月24日（金）の5日間

【会場】 全共連ビル（東京都千代田区平河町2-7-9）

【対象】 助産臨床経験5年以上の助産婦で、精神疾患をもつ妊産婦のケアに関心のある方。また、終了後臨床でメンタルヘルスケアについて指導が可能な方。専門学校・短大・大学の教員は除きます。

【費用】 30,000円（資料代・会場費等） 【定員】 定員40～50名

【プログラム内容】「妊産婦の精神疾患」「妊産婦の精神疾患患者の看護」「家族心理学」「マタニティブルー—臨床的意義と助産婦の役割—」など

【申込み締め切り】平成12年11月6日（月）

【申込み方法】事務局（高橋・中村）まで連絡いただければ、コースの概要・プログラム・申込書などをFAXまたは郵送いたします。

お申し込み、お問い合わせ（事務局）

〒030-8505 青森県青森市浜館字間瀬58-1

青森県立保健大学 母子看護学講座（共同研究室A2）メンタルヘルスケア育成コース係

TEL:017-765-2056 FAX:017-765-2057

事務局だより

暑い夏でした。いろいろな災害も頻発し、きびしい夏でもありました。会員の皆様にとってよい季節が巡ってきますようにと願いつつ今号を編集いたしました。

